

令和3年度 公立瀬戸旭看護専門学校 自己点検・自己評価結果

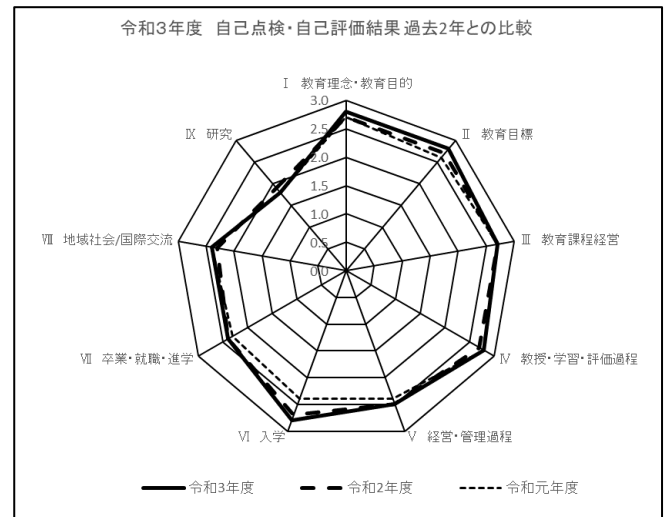
平成30年度より、「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針」を基に点検項目を決め、自己点検・自己評価委員会を開催し、全教員による評価点数の平均値により自己点検・自己評価を実施しています。さらに、令和元年度より、自己点検・自己評価の客観性と透明性を高めて学校運営の改善を図るために、「学校関係者評価委員」の方々にも評価していただいておりますので、これまでの結果と共に、令和3年度の自己評価内容および学校関係者評価結果を公表します。

1. 自己点検・自己評価の結果

点検項目の評価は、「3：当てはまる」「2：やや当てはまる」「1：当てはまらない」の3段階とし、カテゴリー毎に点数を総計し、その平均値を評価の結果としています。

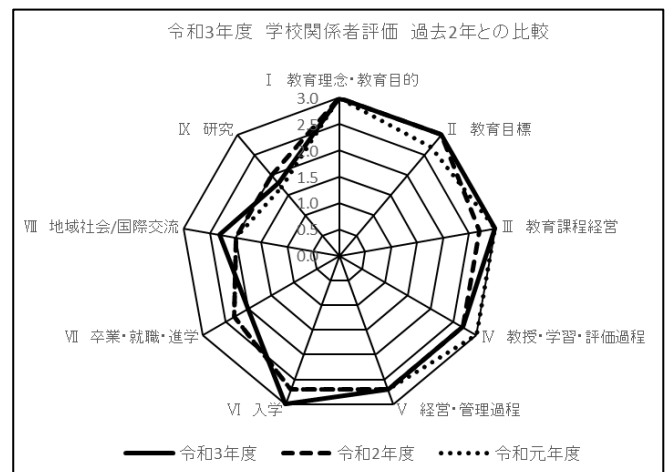
1) 令和元年～令和3年度 内部評価の結果

カテゴリー	項目数	評価結果		
		令和3年度	令和2年度	令和元年度
I 教育理念・教育目的	11	2.8	2.7	2.7
II 教育目標	7	2.8	2.7	2.6
III 教育課程経営	31	2.7	2.7	2.7
IV 教授・学習・評価過程	17	2.8	2.7	2.8
V 経営・管理過程	30	2.5	2.5	2.4
VI 入学	2	2.8	2.7	2.4
VII 卒業・就職・進学	8	2.4	2.4	2.3
VIII 地域社会/国際交流	10	2.4	2.3	2.4
IX 研究	3	1.8	1.9	1.8



2) 令和元～令和3年度 学校関係者評価の結果

カテゴリー	令和3年度	令和2年度	令和元年度
I 教育理念・教育目的	3.0	3.0	3.0
II 教育目標	3.0	3.0	2.7
III 教育課程経営	3.0	2.7	3.0
IV 教授・学習・評価過程	2.7	2.7	3.0
V 経営・管理過程	2.7	2.7	2.7
VI 入学	3.0	2.7	2.7
VII 卒業・就職・進学	2.0	2.3	2.3
VIII 地域社会/国際交流	2.3	2.0	2.0
IX 研究	1.8	2.0	1.7



2. 令和3年度 自己評価及び学校関係者評価結果

カテゴリー	自己評価（評価の概要、今後の課題）	内部評価点	学校関係者評価	
			評価委員評価点	評価委員意見
㊦ 教育理念・教育目的	<p>教育理念として、設置主体である瀬戸・尾張旭市の地域住民の健康と福祉の向上に寄与することができる、人間尊重の精神を持つ感性豊かな看護師を育成することを掲げ、教育目標とともに学生便覧、授業概要、ホームページ、学校案内パンフレット等に掲載している。</p> <p>学生に対しては、教育理念を具現化し、目指す看護師像に到達するための1年間の学習内容に対応した学習目標を提示して、年度始めに学生毎にガイダンスを実施している。</p> <p>教育理念等の学生への浸透については、今年度を実施したアンケート結果から、認知度は1年生において上昇し、前年度よりも全体でも0.1ポイント上昇した。2年次以降の周知させる機会が少ないと思われるので、今後も、学生が常に意識できるように授業や実習など様々な教育活動において意図的な働きかけを継続して行うことが肝要である。</p>	2.8	3.0	・内部評価の通り。
㊧ 教育目標	<p>教育理念・教育目的を基に教育目標を6項目あげ、その目標毎に内容を具体的に明文化している。教育理念に対して教育目的・教育目標は対応しており、一貫性がある。また、教育目標については、社会ニーズに応える内容となっており、教育目標毎に設定意図が明文化されているので学生には理解しやすいものとなっている。また卒業時の到達やゴールとして、今年度から、ディプロマポリシーを掲げ、ホームページ上に掲載し、学生だけでなく、地域への周知も図っている。</p> <p>令和4年度から新カリキュラムを実施していくため、改正点や特徴について、講師、実習指導者、地域に発信し、理解と協力が得られるよう努めていく。</p>	2.8	3.0	・内部評価の通り。
㊨ 教育課程経営	<p>教育課程は、教育理念・教育目的に沿って学習目標や内容を考慮し、序列化して構築している。</p> <p>各授業は、学生が理解しやすいよう工夫し、授業評価を得ながら改善を図っており、科目配列に関しては学生の効果的な学びに繋がるようにしている。</p> <p>前年度より引き続き、コロナ禍による授業内容や評価方法の変更を柔軟に行いながら学習の継続を図り、学科試験まで終了できた。</p> <p>臨地実習においても、コロナ感染症対策について実習施設と連携しながら、最大限臨地で実施してきた。臨地実習ができなかった時間については、県からの許可を受け、学内で実践活動外学習としての補強を行うことにより、カリキュラムを終了できた。</p> <p>今後も、コロナ禍により、計画通りの教育課程の実践が難しいと予測されるため、状況に合わせてより良い教育方法を常に模索しながら実施していく必要がある。</p>	2.7	3.0	・内部評価の通り。

カテゴリー	自己評価（評価の概要、今後の課題）	内部評価点	学校関係者評価	
			評価委員評価点	評価委員意見
ㇿ 授業・学習・評価課程	<p>各分野の講義設定の考え方は、「授業概要」に明文化されており、各授業を分野ごとのまとまりとして捉え、構成している。</p> <p>科目毎の評価は、科目講義内容や試験方法などを専任教員全体で検討した上で、他の関連教科との整合性を保ち、かつ科目の評価も偏らなくに行えている。</p> <p>シラバスは、「授業概要」に全科目を掲載しており、学年進級時に変更があれば修正版をその都度配布し、さらに必要であれば詳細な講義計画を初講時に配布している。ホームページにも掲載し、コロナ禍によるシラバスの内容変更にも対応することができた。各科目の内容は明確にしており、他の科目との関連や重複などについてもマトリックスを作成し直し、新カリキュラム検討にも活かした。</p> <p>今年度も、授業形態は対面授業を基本とし、地域での感染状況に応じてオンライン授業に切り替えながらの授業実施となった。また、演習も実施困難な時期もあり、一部オンラインに切り替えざるを得なかったが、大半は時期を考慮し密としない様に方法等を工夫することで、可能な限り実技を行うことができた。</p>	2.8	2.7	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じてシラバスの変更も行えている。コロナ禍による対面からオンラインへの変更も臨機応変に行えている。 ・講師や講師評価の検討の機会があるとよい。
ㇾ 経営・管理課程	<p>組織体制は、学則・校務分掌要綱において規定している。また、教育活動に関する意思決定については、運営委員会や各種委員会等において審議のうえ校長が決定する体制としており、その決定事項を教職員に周知している。</p> <p>予算については、所定の予算要求手続きを経て決定されるが、設置自治体の財政状況が厳しいことから、要求内容とおりに手当てされることは稀である。このため、要求にあたっては事業の優先順位やもたらす効果などについて十分な検討を行っている。また、予算の執行についても財務規定に則り適正な執行に努めており、毎月、定期監査を実施している。</p> <p>今後は、施設整備や教材備品等の購入を計画的に行い、充実した教育環境を整えるよう取り組んでいく。</p>	2.5	2.7	<ul style="list-style-type: none"> ・内部評価の通り。
ㇽ 入学	<p>入学者の選抜については、受験倍率・受験者数の推移を考慮して入学試験（一般・推薦・社会人）を実施しており、入試委員会の審議を経て入学者を決定している。</p> <p>今年度もコロナ禍による様々な感染対策を実施しながら入試を実施した。一般入試では、無症状の濃厚接触者に対しての別室受験も実施した。受験者数は、昨年度よりも増加し、例年通りの学生数の確保となった。</p> <p>質の高い入学者を獲得するために、受験者を一定数以上確保することは重要であり、今後一層、広報活動の充実を図ると同時に、社会情勢を踏まえた入学者の選抜方法を検討していく。</p>	2.8	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ・内部評価の通り。

カテゴリー	自己評価（評価の概要、今後の課題）	内部評価点	学校関係者評価	
			評価委員評価点	評価委員意見
㊦ 卒業・就職・進学	<p>国家試験の合格者割合は、近年 96～100%を維持し全国平均を上回っており、その維持・向上に向けて、計画的に3年間の学習計画を策定し実施している。</p> <p>国家試験対策として、成績不振な学生に対して手厚い個別指導を行っているが、今後も引き続き強化し、合格率 100%を目指していく。</p> <p>卒業生の7～8割は瀬戸旭地域の医療機関に就職している。今年度、卒業後1年経つ25回生に対し動向調査を実施し、本校で受けた教育が今の看護師としての活動に活かされているという意見が得られた。また卒業生の多くは各医療機関の実習指導者となっている。当校の非常勤講師として後輩の育成に尽力されている卒業生もある。</p>	2.4	2.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合格率は高いが、退学や留年者が定数いる。入試の見直しに着手されたし。 ・ 卒業時の到達状況について、就職先と実践能力や背景等の情報交換をすると教育プランが立案しやすい。
㊧ 地域社会／国際交流	<p>学生は、環境ボランティアとしての清掃活動を全学年で行い、地域におけるボランティア活動として、実習病院での催しや各種イベントへも参加・協力している。今年度もコロナ禍により中止のものが多く、状況に応じての参加となった。</p> <p>教員による専門分野を活かした社会貢献としての、外部機関への講師として派遣、臨地実習指導者講習会の講師や教育実習については実施ができた。</p> <p>国際的視野を広げるため、国際看護の基本理念の理解やその方法を考える授業を取り入れ、災害看護担当の外部講師による特別講演なども実施し、学生に国際交流への関心や意識を高めるよう努めている。</p>	2.4	2.3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内の認知症カフェや実習病院等での対人的ボランティア活動をするほうが、よりわかりやすい。
㊨ 研究	<p>全ての教員が、いずれかの研修会や学会等に参加できるように年間計画を立て実施している。今年度もコロナ禍により予定していた研修が一部中止になったが、オンライン開催となったものには参加できた。</p> <p>組織的・計画的な研究活動の実施体制は、十分とは言えない現状がある。授業研究に繋がるような学校内での積極的な授業参加は、年々件数が増加してきており、教員各自の授業実践力の向上にはつながっている。</p> <p>今後も引き続き教員の研究活動が組織的に行える体制づくりを検討していく。</p>	1.9	2.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床現場と合同研究をしたり実習病院での症例発表会に参加するとよい。